

「レイチェル・カーソンのつどい2018」に参加して

5月27日、名古屋での集いに参加しました。原発事故後高まっていた「節電！」の声も小さくなり、地球は一体どうなっていくのだろうと漠然とした不安を抱えていたからです。

会場につくと超満員。出席率は110%だったそうです。

「現代のレイチェル・カーソン」と司会の原氏から紹介を受けた上遠先生は、静かに、けれど強く、すべての命の大切さについて語られました。

命をはぐくむ地球を守る。それは、まだ生まれていない子どもたちに向けての私たち大人の責任——この言葉によって、私は自らの問題として、つぎの高村先生のお話を聞くことができました。

高村先生のお話は、各国の取り組みが表やグラフで示され、予備知識のない私にも「確かに再エネ時代に向かっている」と、心強く思えるものでした。中でも中国の躍進はすばらしく、目をみはりました。

懇親会は、これから会を盛り立てていこうという活気に満ちており、様々な職種の方が、協会の理念にそって力を注いでおられることがよくわかりました。

この日は、レイチェル・カーソンの111回目の誕生日。会の最後には皆で大きな拍手をおくりました。

遠いからと出席をためらっていましたが、参加させていただき本当によかったです。熱く豊かな思いを抱いて帰路につくことができました。ありがとうございました。

松本 聡美

